

おおびらき まつのちょう
大開遺跡・松ノ丁遺跡

事業名 一般国道11号小松バイパス埋蔵文化財調査

委託者 国土交通省四国地方整備局

受託者 財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター

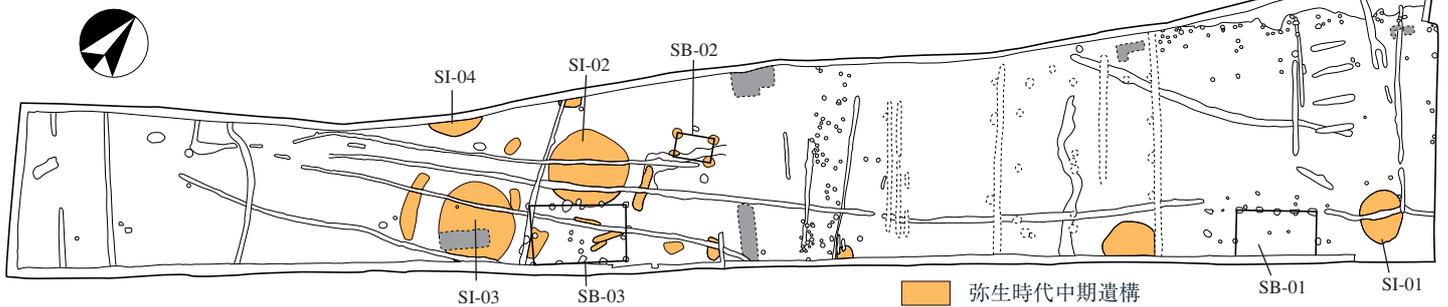
場所 周桑郡小松町北川

調査面積 松ノ丁遺跡:2,000㎡(平成15年度調査)
大開遺跡:6,400㎡(うち3,800㎡は平成15年度調査)

調査期間 平成15年11月～平成16年11月(予定)



大開遺跡4区東側全景(右側に見えるのが自然流路)



大開遺跡4区 遺構配置図



大開遺跡4区土坑から出土した弥生土器



大開遺跡4区自然流路から出土した古代の瓦

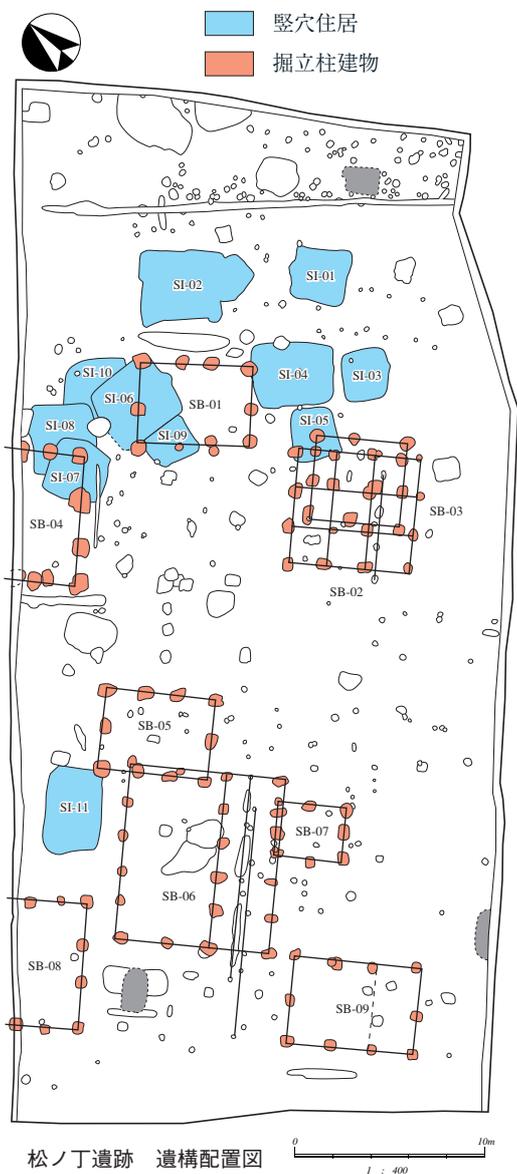
調査の経緯

小松バイパス建設に伴う発掘調査は平成9年から始まりました。過去の調査では愛媛県でも最も古い前方後円墳の一つである大久保1号墳の発見をはじめ、大久保遺跡と大久保遺跡大久保・竹成地区では約2,300年前の弥生時代前期末から中期はじめに営まれたムラや奈良時代(8世紀)の役所関連施設や一般のムラ、そして条里地割などが検出されました。またそれに先駆けて調査した今治小松道路建設に伴う調査では、松ノ元遺跡で奈良時代の官道と考えられる道路遺構が見つかっています。

今回、現地説明会を開催する松ノ丁遺跡と大開遺跡は平成15年に発掘調査を開始しました。松ノ丁遺跡と大開遺跡1～3区は平成15年度中に調査を終了し、現在は大開遺跡4区と大久保遺跡の一部(2,000㎡)を調査しています。

では松ノ丁遺跡と大開遺跡の調査成果について見てみましょう。

※図中に記載している遺構記号は、SIが竪穴住居、SBが掘立柱建物、SCが鍛冶関連遺構を表しています。



松ノ丁遺跡全景(整然と並ぶ掘立柱建物の柱列が見てとれます)



松ノ丁遺跡で見つかったカマド付き竪穴住居(SI-01)

調査の成果

松ノ丁遺跡

竪穴住居 12棟、掘立柱建物 9棟、柵列 2条、条里溝 1条をはじめ、土坑や小柱穴群がたくさん検出されました。竪穴住居のうち 1 棟には造りつけのカマドが設けられていました。全ての掘立柱建物は同じ方向(北 41 度西)を向き、規則性を持っています。掘立柱建物には総柱構造の倉庫と考えられる建物も含まれています。これらの建物は、その出土遺物から近くにある国史跡法安寺跡と同じ白鳳時代(7世紀後半)から奈良時代を経て平安時代の9世紀末ころまで営まれていたことがわかりました。また建物の柱穴内からは一般の集落からは出土しない製塩土器や赤色塗彩土師器、他地域で作られた土師器が出土しています。こうしたことから松ノ丁遺跡に住んでいた人たちは当時としては生活水準の高い暮らしをしていた人たちであったと考えられます。法安寺や地方豪族との関連が注目できそうです。

大開遺跡1~3区

竪穴住居1棟、掘立柱建物 9棟、鍛冶遺構1基、柵列7条、条里溝18条をはじめ、土坑や小柱穴群が検出されました。2間×3間を基本とする掘立柱建物は、同一場所での建て替えが認められました。掘立柱建物や柵列・土坑の時期は、奈良時代(8世紀)が中心で、一部平安時代の11世紀初頭ころまで下るものもありました。建物と柵列は松ノ丁遺跡と同様で同じ方向(北41度西)を向き、規則性を持っています。1・2区で検出された掘立柱建物の配置をみると官衙によく見られる「コ」字形の建物配置であることがわかります。字が書ける人がいたことを示す転用硯も出土していることから、当時の役所に関連する建物があったと考えられます。

大開遺跡4区

竪穴住居3棟、掘立柱建物3棟、流路や条里溝をはじめ、土坑などが検出されました。この調査区では、以前の調査区で多かった奈良時代前後の遺構は少なくなり、弥生時代の遺構が多く見つかるようになりました。円形の竪穴住居は弥生時代中期後半(今から約2,100年前)に作られたものです。住居からは石鏃がたくさん出土しています。また同じところから石鏃を作る時に排出されたサヌカイトの剥片が 500点以上出土していることから石器製作を行っていた住居と考えられます。住居やそれを取り巻く土坑からは当時の祭祀道具である分銅形土製品が出土しています。こうした成果から弥生時代のムラがあったことが想像できます。調査区の北東で見つかった流路からは奈良時代ころの土器と一緒に古瓦が出土しました。数は少ないですがこの瓦は法安寺から排出されたものと考えられます。